

資料 手話の特徴を知るためのゲーム ～「にているところ」と「ちがうところ」の活用にあたって～

本教材は、聴覚障害や手話について学ぶ小・中学生のために日本財団の支援を受けて「手話教育教材研究会」が2017年に作成しました。

1 はじめに

現在、小学校等では、国語、道徳の時間、総合的な学習の時間等に障害を理解するための学習が行われています。さらに、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、障害のある子どもとの交流及び共同学習の機会が積極的に設けられ、その成果が少しずつ実を結んでいます。

聴覚障害に関しては、近年、全国各地において手話言語条例の制定が進み、聴覚障害や手話等についての理解・啓発が自治体レベルで進んでいます。この条例では、地域住民への聴覚障害についての正しい理解及び手話の普及を推進することなどが示されており、小学校等においても、子どもたちに手話や聴覚障害に関する学びを提供することが求められています。

そこで、私たちは、小学校等の先生が聴覚障害及び手話理解のための授業に活用することができる教材を作成することにしました。

第1弾として、聴覚に障害のある大学生の自宅、学校での生活の様子を通して、聞こえないということ、手話などについて知ることができる「聴覚障害を理解するための動画教材」を作成いたしました。

第2弾として、手話は「手の場所」「手の動き」「手の形」の組合せで表現できる言語であることが理解できる「手話の特徴を知るためのゲーム」～「にているところ」と「ちがうところ」～を作成しました。

これらの教材を活用した学習を通して、手話とはどのような言葉なのかを考えるきっかけを作ってほしいと思います。

本教材は手話を学ぶためのものではありませんが、教材を通して、多くの子どもたちが、手話に関心をもってくれることを願っています。

2 本資料の構成

(1) 指導資料（PDFファイル）

授業の流れ、指導者用の配慮事項をまとめています。

(2) 手話単語のイラスト及び動画教材

授業で使用する10個の手話単語のイラストと動画資料です。

(3) ワークシート

授業後半の意見発表の際に活用ください。

3 授業の進め方について

手話は「手の場所」「手の動き」「手の形」の違いによって言葉の意味を伝える言語で

す。指導資料は、小学校高学年の児童に手話の特徴を知ってもらうために作成したものです。表現が似ている手話の単語、10個を提示し、それらのどこが似ているのか、どこが違うのかについて考え、自由に話し合うことができるようにしてあります。説明の仕方等を工夫すると中学生、高校生を対象とした授業にすることも可能だと思います。担当している子どもたちの実態に合わせて、道徳の時間や総合的な学習の時間等にご活用ください。手話という言語の仕組みを学ぶことができると思います。